

平成 22 年度終了課題に係る終了評価書

研究機関 : (株)日立製作所、KDDI(株)、パナソニック システムネットワークス(株)、
エヌ・ティ・ティ・ドコモ(株)

研究開発課題 : ユビキタス・プラットフォーム技術の研究開発(ユビキタス端末技術)

研究開発期間 : 平成 20 ~ 22 年度

代表研究責任者 : 寺田 修司

■ 総合評価(SABCD の5段階評価) : 評価A

■ 総合評価点 : 47 点

(総論)

大きな構想の下、ハードとソフトとの連携により、高い数値目標の計画を達成し、
実用に近いレベルの技術を開発。

(コメント)

- 魅力のあるサービスを提供できるプラットフォーム技術の研究開発が行われたが、ユビキタスサービスを
遍く普及させるという当初の夢が実現されたとは言い難い。
- スマートフォンにアクティブタグを内蔵したユビキタス端末に、新しいソフトをあとからダウンロードするこ
とにより、新しいサービスを追加できるであろうことに関心を持った。
- 忘れ物防止や高齢者の徘徊防止に役に立つと思う。

(1) 研究開発の目的・政策的位置付けおよび目標

(SABCD の 5 段階評価) : 評価 A

評価点 : 8点

(総論)

ユビキタスサービスの普及障害となっている共通基盤の不在に対して、携帯電話へ着眼するなど、目的・位置付け・目標は妥当であった。

(コメント)

- ビジネス戦略のさらなる検討や、新しい課題の解決の検討が重要である。
- 開発の開始時期がもう少し早ければ、より大きなインパクトがあったと思われる。

(2) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(SABCD の 5 段階評価) : 評価 A

評価点 : 8点

(総論)

受託者間の十分な連携の下、チップや機器等の研究開発を実施。また、スマートフォンの登場等、研究開発環境の変化にも適応。

(コメント)

- 日本代表する企業の成果として、より有効かつ効率的な研究開発の実施が可能だったと思われる。
- ビジネス展望を見出すところまでレビューして欲しかった。今後、ベンダ側でより積極的な市場展開を期待する。

(3) 研究開発成果の目標達成状況

(SABCD の 5 段階評価) : 評価 A

評価点 : 8 点

(総論)

研究開発を着実に進め、実用レベルの技術を開発。評価書に示された高い目標を達成。

(コメント)

- 新しい発見は技術的には少ないが、研究の性質上理解できる。

(4) 研究開発成果の社会展開のための活動実績

(SABCD の 5 段階評価) : 評価 A

評価点 : 8 点

(総論)

フィンランドとの連携や数多くの実証実験を実施により、研究開発成果の社会展開を促進。しかし、日本を代表する企業として、より多くの特許出願等が可能だったと思料。

(コメント)

- 岩見沢市などの成功事例の芽が見えてくるなど、具体的にビジネス化を始めている。
- 社会展開をより強力に進め、成果事例を作っていただきたい。
- 鉄道が地震のあと長期間止められるようなことを防止できるアプリなど、開発の可能性も大きいのではないか。
- 国際標準化活動や国際的な活動・宣伝を、より積極的に行えたと思われる。
- 電子タグシステムは、いずれ社会に展開されるものであるが、本研究開発にはその時期を早める効果があった。

(5) 研究開発成果の社会展開のための計画

(SABCD の 5 段階評価) : 評価 A

評価点 : 7点

(総論)

電子タグシステムの導入に積極的なユーザの更なる獲得に向け、今回の研究開発成果を強みとするビジネス戦略の検討が必要。

(コメント)

- アンドロイド等、技術の変化に適応した計画が求められる。
- 特許の海外出願が少ない印象あり。